



ひろがる つながる 笑顔ある 暮らし



サステナビリティレポート 2019



© やなせたかし

2020年ビジョン コープあいちのありたい姿

豊かな自然の恵みと地元の産業を大切にし、
安心して暮らし続けられるまちづくりを協同の力ですすめます

協同の力で2020年ビジョンの実現と「SDGsの17目標」への貢献を

コープあいちがめざす2020年ビジョン（コープあいちのありたい姿）は、国連が定めた「※持続可能な開発目標（SDGs）」と多くの部分で重なり合っています。

2018年度、さまざまな学習の機会を設け、理解を深めながら「SDGsの17目標」への貢献について確認し合いました。



6月14日 第9回通常総代会

2018年4月25日、コープあいち組合員活動交流会2018in白鳥を開催しました。一般社団法人SDGs市民社会ネットワークの新田恵理子さんによる講演では、SDGs（持続可能な開発目標）の基本や意義、生協の活動とのかかわりについて学びました。

6月14日「第9回通常総代会」においては「コープあいちSDGs行動宣言（特別アピール）」を採択し、協同の力でSDGsの実現に向けて貢献していくことを確認しました。



4月25日 コープあいち組合員活動交流会2018in白鳥

▲貧困のない持続可能な世界に向けた「SDGs17目標」と自分たちの活動との関連を近くに座った組合員同士で話し合いました。



コープあいち SDGs行動宣言（特別アピール）

私たちは、「生協の21世紀理念※」のもと、助け合いの組織として、誰もが笑顔でくらすことができ、持続可能な社会の実現をめざし、さまざまな取り組みをすすめてきました。誰も取り残さないというSDGsのめざすものは、協同組合の理念と重なり合っています。SDGsの17番目の目標は“パートナーシップ”です。あらゆる課題を解決するためには、協同の力が不可欠です。コープあいち、組合員との絆を大切に、地域とのつながり、行政との連携、メーカー・生産者などさまざまな取引先との連携を“力”にしながら、これまでもSDGsに関わる課題に取り組んできました。私たちは、これらの活動の価値を確かめ合い、「コープあいちサステナビリティレポート」として内外に公表しながら、協同の力でSDGsの実現に貢献していきます。「一人はみんなのために、みんなは一人のために」の理念を大切に、安心してくらす持続可能な社会の実現に向けて、これからもともに歩んでいきましょう。

平和とよりよい生活のために

2018年6月14日 生活協同組合コープあいち 第9回通常総代会

※「自立した市民の協同の力で人間らしいくらしの創造と持続可能な社会の実現を」をスローガンに日本生協連と全国生協が、1997年に策定。



※裏表紙に見やすく掲載しています。

※持続可能な開発目標（SDGs）について

急激な気候変動や自然災害、資源の枯渇、貧困、不平等な教育環境など、今、私たちはさまざまな問題に直面しています。グローバル化が進む中で、こうした諸問題は、複雑につながりあっており、これらの解決には、経済、社会および環境側面からの統合的な取り組みが不可欠です。このような状況を踏まえ、2015年9月、国連では「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が150を超える加盟国首脳の参加のもと採択されました。この中で先進国と開発途上国が共に取り組むべき国際社会全体の普遍的な目標として持続可能な開発目標（SDGs）17のゴールと169のターゲットが掲げられました。

17

パートナーシップで目標を達成しよう



コープあいちのSDGsの17番目の目標“パートナーシップ”を重視し、組合員と共に地域とのつながり、行政やメーカー・生産者との連携を通じてさまざまな活動をすすめています。サステナビリティレポート2019では2018年度の具体的な行動を通じて、コープあいちが大切にしてきた考え方を広くみなさんに発信いたします。

組合員・地域とのつながり

地域でさまざまな助け合いの輪がひろがっています。



▲豊明市おたがいさまセンターチャット1周年 ※8ページに関連記事

行政との連携

県下49自治体と防災協定を結び各地域の合同災害訓練に積極的に参加しています。

穂積新市長と森理事長
新城市との「災害支援協力
協定」再締結 ▶
※16ページに関連記事



メーカー・生産者との連携

地元JAやメーカーと一緒に、食とくらしを考える交流を深めています。



▲JAあいち海部「稲作交流会（稲刈り）」 ※14ページに関連記事

家族と考える持続可能な営み…SDGsすごろく

「コープあいちSDGsすごろく」は、これまでコープあいちが取り組んできた事業や活動がSDGsにつながっていることや、普段のくらしの中で家族でできることを知っていただくために作成しました。組合員が楽しみながら学ぶツールとして活用いただき、「我が家のSDGs宣言！」を通じて未来のコープあいちをみんなで考え合うきっかけとします。今後は「我が家のSDGs宣言！」を店舗や組合員が集まる場で貼り出すなど、組合員に呼びかけながらみんなで共有できる場をつくっていきます。



編集方針

コープあいちサステナビリティレポート2019は持続可能な開発目標SDGsを指針とし、SDGs17ゴールの5分類（5つのP）「People（人）」「Prosperity（豊かさ）」「Peace（平和）」「Planet（地球）」「Partnership（連帯・協同）」をキーワードにコープあいちの主な2018年度活動を報告します。

対象期間 2018年3月21日～2019年3月20日（一部に例外もあります）

対象範囲 コープあいちの活動を中心に連携する諸団体

発行年月 2019年6月。次回は2020年6月の発行予定です。



目次

2020年ビジョン／編集方針／目次 …… P1	〈特集〉協同組合で働くこと …… P17
〈特集〉コープ日進店リニューアルオープン …… P3	かけがえのない地球を未来の世代へ …… P19
〈特集〉生協10の基本ケア …… P5	DATA（事業） …… P23
すべての人々に尊厳と笑顔あるくらしを …… P7	多様な職員の力で未来を拓く …… P25
真のくらしの豊かさを実現する …… P9	サステナビリティレポート発行にあたって …… P26
平和で公正な社会の実現 …… P15	

コープ日進店リニューアルオープン

2012年に名鉄(豊田線)日進駅近くにオープンしたコープ日進店は、2018年11月にリニューアルしました。地域への貢献、環境への貢献、商品の利用を通じた社会貢献を明確に意思表示するため、その店頭にはSDGsの17目標が掲示されています。



コープ日進店は昨年11月に、人と環境に優しい店舗をめざし、施設・売場・品ぞろえの見直しを行いました。生鮮商品を中心に組合員のみなさんと大切に育ててきた商品(はぐくみ自慢・栽培自慢)やCO・OP商品を中心に、環境やくらしを応援できる店舗をめざしています。

3つのストアコンセプトを日々実践し、価格以外に「価値・商品・鮮度」で選んでいただける店舗をめざし職員一同努力しています。

コープ日進店 鈴木店長▶



毎日のくらしを支え、組合員の笑顔につながるいっそうのお役立ちを実現するために...

リニューアルの3つの柱

- ①くらしと多様なライフスタイルに合わせた私の欲しい商品があるお店
- ②素材のおいしさを日々実感でき、鮮度と食の提案があるお店
- ③健康・家族・地域を食卓でむすぶ元気をつなぐコープごはんのお店



▲農産売り場では、新鮮なサラダ素材が組合員をお出迎え



▲健康は大切なテーマ。発酵食品(キムチ・甘酒)コーナー



▲子育て世帯を応援する乳幼児向け食品「きらきらステップ」のコーナー



▲産直素材を使用した、出来立て惣菜コーナー

環境負荷のいっそうの低減

主要な冷設機器の更新を実施しました。冷媒をフロンから温室効果の低い二酸化炭素(CO₂)に切り替えると同時に電力使用の効率化を図りました。また、冷凍売り場の多くを扉のあるタイプ(リーチインタイプ)に変更し、冷気を遮断することで使用電力のさらなる削減を実現しました。

[前年同時期(1月~3月)比較でコープ日進店全体の電気使用を12.6%削減]



コープ日進店の売り場から社会の変化へ...エシカル商品の一例

コープあいちでは、エシカル消費を「地域や社会、環境や人に配慮して、モノやサービスを利用する消費のあり方」と位置づけ、確かな情報を伝えることで、消費を通じた社会の変化につなげます。



トイレットロール売り場

CO・OPコアノンスマイルスクールプロジェクト

コアノンロール1パックの利用につき1円を、ユニセフを通してアンゴラ共和国の「子どもにやさしい学校」づくりに寄付しています。2017年11月1日~2018年10月31日の東海3生協の利用は、884,070円の寄付に相当します。



紅茶売り場



レインフォレスト・アライアンス認証

レインフォレスト・アライアンス認証マーク付きの製品の購入で、より健全な地球と農園共同体の暮らしの向上を支援します。



コープ化粧品

「ピンクリボン運動」協賛キャンペーン

ピンクリボン運動は、コープ化粧品1点の利用につき1円を、認定NPO法人J. POSH(日本乳がんピンクリボン運動)に寄付しています。乳がんに対する啓発や患者や家族の支援を進めます。2018年10月1日~11月20日の東海3生協の利用は、101,986円の寄付に相当します。



洗剤売り場

コープの洗剤環境寄付キャンペーン

洗剤環境寄付キャンペーンは、対象商品1点の利用につき0.5円を、WWFジャパンに寄付しています。持続可能なパーム油の生産を支援する活動につながります。2018年5月21日~2019年3月20日の東海3生協の利用は308,056円の寄付に相当します。



CO・OP×レッドカップキャンペーン

CO・OP×レッドカップキャンペーンは、キャンペーン対象商品1点の利用につき1円を、国連WFPに寄付しています。カンボジア王国の子どもたちに学校給食を届けるために使われます。2018年10月1日~11月20日の東海3生協の利用は、380,332円の寄付に相当します。



環境負荷の軽減や資源枯渇防止の貢献につながるエシカル商品の一例



はぐくみ自慢(畜産)マーク
飼育方法や飼料、衛生管理、交流の取り組みなどを評価し、認定された畜産物(食肉・牛乳・卵)につけられます。



コープの森づくりマーク
このマークがついた商品の利用で1品に対して1円を支援します。商品産地での植樹を通じて海を守り育てる活動に役立ちます。



MSC認証「海のエコラベル」
持続可能な漁業で獲られた水産物に付けられる認証マークです。



FSC®認証
このマークのついた商品は、環境保全の点から見て適切で、社会的な利益にかなう、経済的にも継続可能な形で管理された木材を使用しています。



CFP...Carbon Footprint of Products
環境への負荷を削減したことを示すマークではありませんが、商品の原材料の調達・製造から廃棄リサイクルまでのすべての過程で排出される二酸化炭素(CO₂)の量を商品に表示したものです。



住みなれたまちで、 安心してくらしつづけるために・・・

高齢者や障がい者が、住みなれた場所で安心してくらしつづけられるように生活リハビリに加え、「生協10の基本ケア」の学習と実践をすべての介護保険サービス事業ですすめています。

「生協10の基本ケア」の特長は、自立支援により、利用者ご自身の「ふつうの生活」を取り戻し、利用者と家族の生活の質を高めていくことにあります。

本特集ページでは、2月10日に開催した「福祉職員集会」の事例発表において、職員が選ぶ好事例で1位に選ばれた福祉サービス名東の取り組みを服部所長からご紹介します。



生協10の基本ケア

- | | |
|-------------|--------------|
| ①換気をする | ⑥座って会話をする |
| ②床に足をつけて座る | ⑦町内へ外出する |
| ③トイレに座る | ⑧夢中になれることをする |
| ④あたたかい食事をする | ⑨ケア会議をする |
| ⑤家庭浴に入る | ⑩ターミナルケアをする |



▲2月10日 福祉職員集会

▲小野専務理事より事例発表1位の表彰



▲福祉サービス名東
所長 服部 利季

「生協10の基本ケア」の取り組みが始まる・・・

「10の基本ケア」はもともと、奈良県にある社会福祉法人協同福祉会が運営する「あすなろ苑」の介護理念です。コープあいちでも生協10の基本ケアを介護理念として取り組んでいこう、という話になってから3年がたちますが、当初、職員の印象としては「これは施設だからできることで、在宅では難しいのでは？」でした。なので、まずは皆で生協10の基本ケアを在宅の介護としてとらえて考えることから始めました。“在宅としてとらえやすい”、“誰が見ても分かりやすい”を意識して新たに生協10の基本ケアの①～⑩の言葉を考えました。皆で考える過程で生協10の基本ケアの理解が少しずつ深まりました。

地域みなさんにもっと知ってほしい・・・

2018年度、地域みなさんに事業所のことをもっとよく知っていただくために、秋まつりを開催しました。来ていただいた方に「生協の介護はどんなことを大切にしているか」を理解してもらうため、「生協10の基本ケア」をパネルにしてみなさんに見ていただきました。作成過程では職員がアイデアを出し合い、ていねいにつくったことで、予想以上に多くの時間がかかりましたが、気持ちのこもったよいものができたと思っています。完成したパネルは、介護理念を分かりやすく、温かく表現できていると好評をいただきました。



Sさんの自立支援の場合

病院から寝たきり状態で自宅に帰って来たSさん。奥さまと高齢者2人ぐらしということもあり、自宅で見ていくのは難しいと先生に言われましたが、奥さまの「自宅に連れて帰りたい」という強い思いがあり、自宅に帰ってこられることになりました。ヘルパー等の介護サービスを利用しながら在宅で見ていく方針になりました。

まずは、Sさん本人の持っている力を確かめるようにしながら、オムツ交換の支援でヘルパーが入り始めました。オムツ交換時には「膝、立てられますか？」と声をかけると自分の力で膝を立てることができました。また、奥さまの負担を軽減するためにデイサービスに行く目標ができましたが、そのためには座っていただけるようになる必要がありました。自宅でも座っていただける時間をつくるために、ヘルパーが来たときには車いすに座って着替えを行うようにしました。安定して座っていただけるようになったので、今度はなるべく座って排便ができるように、ヘルパーが来たときはポータブルトイレに座って排便を促すことになりました。今では、便座に座ると便意を催して便が出ることが増えました。

Sさんにとって何が一番よいかを考えて実践したら 自然と10の基本ケアになった・・・

このころになって初めて「これって10の基本ケアと同じだ」と気が付きました。実は、最初から10の基本ケアを意識していたわけではなく、Sさんにとって何が一番よいかを考えて実践してきた結果が自然と10の基本ケアの通りになっていました。

今では、デイサービスにいる時はレクリエーションに参加したり、口から（少しですが）物が食べられるようになったり、ヘルパーと一緒にパン屋に行ったり、少しずつですが、やれることが増えています。10の基本ケアは何か特別なことをするわけではなく、「自立支援と生活リハビリの視点でかわっていく為の基本的なケア」として実感を持つことができました。



▲主治医とも相談しながら自分の口で食べたい気持ちを大切にしました。



▲時間はかかっても、声をかけて自分の力で足をあげてもらおうよう働きかけました。待つことが大事です。



▲自分の足の力を使って立ち上がってもらうことをサービス事業所間で連携し、支援にあたりました。

その方の力を引き出すケアを 皆ですすめたい

利用者さんの「住みなれた自宅ですっきりとくらししていきたい」という気持ちを大事にして、職員は自立支援と生活リハビリの視点でこれからも利用者さんとかかわっていきたく思います。なんでもやってあげる至れり尽くせりのケアではなく、その方の力を引き出すケアをしたほうが、長く自宅ですっきりとくらし続けることができます。皆で同じ方向を向いてケアにあたっていけたらと思います。



▲福祉サービス名東 職員みなさん



すべての人々に尊厳と笑顔ある暮らしを

協同の力で、健康的で尊厳ある暮らしを守ります

住みなれたまちで、安心して暮らしたい。地域ふくしの願いに応えるために、コープあいちが“協同・たすけあい”の輪をつなげ広げる福祉事業に取り組んでいます。



コープあいちの福祉事業

福祉サービス豊川新事務所オープン



▲新「福祉サービス豊川」

2019年2月4日、福祉サービス豊川は「コープステーション」と「コープ夕食宅配」の発着場としての機能が加わり新しい事業所として再スタートしました。1階には組合員・地域みなさんに活用していただける会議室も備えています。今後はコープステーション利用の組合員や地域みなさんに向けて「ふくし何でも相談会」を定期的に開催し、地域の拠点としていっそうの役割を果たしていきます。また、会議室を活用し「生協10の基本ケア※」の学習会を事業所全体で実施しています。

※「生協10の基本ケア」は、利用者ご自身の「ふつうの生活」を取り戻すための自立支援介護における10の大切なポイントをまとめたものです。



▲福祉サービス豊川
所長 高和 節子

「小規模多機能ホーム豊橋西(小規模多機能型居宅介護)」の今

2018年12月、小規模多機能ホーム豊橋西は、おかげさまで開設1周年を迎えることができました。当初はコープあいち職員に小規模多機能型居宅介護サービス事業所で働いた経験者がいない中、周りの方の協力をいただきながらのスタートでした。サービスを見直しながらようやく軌道に乗り、利用者や家族の方から「ここを利用してよかった」「いざというときに使えてありがたい」「いろんな地域にこのようなサービスが増えてほしい」と言っていたできるようになりました。今後も利用者や地域の方にとってなくてはならない施設として、住みなれたところで1日も長くくらしていただけるよう、職員一同心を一つにして支援していきます。



▲小規模多機能ホーム豊橋西
管理者 鎌倉 恵子

コープあいち支援センターなごや Data 延べ利用者数/942人

名古屋市の生活支援型訪問サービス※を行っています。高齢による体の衰えから、無理ができなくなっている家事(掃除、調理、買い物代行など)を手伝います。手伝いは生活支援員として研修を受けた組合員が行い、コミュニケーションをとりながら在宅で自立してくらすことを支援します。

※介護保険サービス対象外の高齢者(事業対象者や要支援など比較的軽度な方)に、市町村ごとに提供される家事支援サービスです。



▲利用者と一緒に掃除の支援をしています。

くらしたすけあいの会

Data 協力会員数/513人、賛助会員数/402人、
利用会員数/1,011人(2019年3月20日時点)



「くらしたすけあいの会」は病気やけがなどで家事ができないときに「困ったときはおたがいさま」の気持ちでお手伝いをする、会員制・非営利の自発的な有償家事援助サービスの会です。身近な地域でたすけあいの輪が広がるよう、組合員と職員が一体となって活動をすすめています。

◀家事支援の他にもくらしのテーマグループ(組合員の自主的活動)の依頼で託児を行うこともしています。

豊明市の3つの協同組合による生活支援「ちやっと」

「ちやっと」は、豊明市で行われている生活のちょっとした困りごとに対応する活動です。介護保険制度が重度の方向けに移行する中、市町村は軽度の方向けに多様なサービスを考えています。豊明市では3つの協同組合(南医療生協・JAあいち尾東・コープあいち)が協力してこの取り組みを始めました。

1周年記念イベントには、豊明市長とコープあいちを含む3つの協同組合の代表が参加しました。▶



ユニセフ募金活動・・・すべての子どもに5歳の誕生日を



▲コープ岩田にて
地元の中学生と一緒に募金に取り組みました。

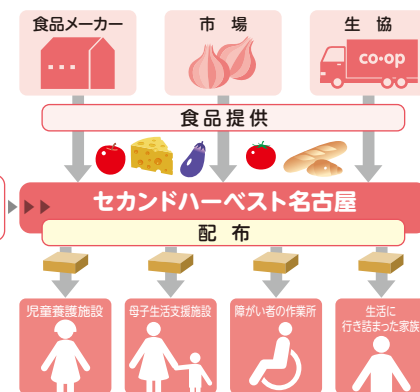
コープあいちでは12月に店舗を中心に「ハンド・イン・ハンド募金活動」や、お年玉募金の協力を呼びかけ、ユニセフを通じて開発途上国の子どもの支援に役立てています。2018年度のテーマは「すべての子どもに5歳の誕生日を」です。世界には、5歳の誕生日を迎えることなく亡くなる子どもが年間560万人います。これらの子どもたちは、予防接種の普及、安全な水や衛生的な環境の確保、栄養改善などにより救うことができます。2018年度の募金額は3,880,156円です。

フードバンク支援 Data 供給実績/13万5千個の商品提供 2018年(1月～12月)

2015年から賞味期限の残りが少ない食品など、お届け基準を外れて処分せざるを得なくなった商品を認定NPO法人「セカンドハーベスト名古屋」を通じて福祉施設等の団体・個人へお届けしています。2018年は新たに青果(バナナ)の提供を始め、東海コープ事業連合の物流センターから届けられた商品は2018年(1月から12月)実績で約13万5千個となり前年を2万2千個上回りました。

ICAN(アイキャン)

路上生活をおくるフィリピンの子どもたちが安定した収入を得て生活ができるよう教育・保健衛生・協同組合づくり等を支援する名古屋市の認定NPO法人。コープあいち書き損じハガキ回収等の取り組みを通じ、ICANの活動資金づくりに協力しています。2016年からはICANが主催する「フィリピンの子どもたちとの交流を目的としたスタディーツアー」に若い職員を中心に研修参加しています(2016年～2018年で12名が参加)。



▲スタディーツアー参加者同士の現地ミーティング
(真ん中が杉原さん)

仲間づくり推進部 杉原翔太 さん(参加報告より抜粋)

・・・今後の具体的な行動計画として、まずは自分自身がICANのマンスリーパートナー※として協力します。そしてコープあいちで働く職員として、ICANの書き損じハガキの取り組みを職員、組合員、友人、家族など自分がかかわるすべての人に知ってもらい、活動の輪を広げていきます。また、多くの方にフィリピンの実情とICANの活動を知ってもらうために、今回のスタディーツアーで目で見、耳で聞いて、心で感じたことを伝えていきます。 ※毎月1,000円をICANの活動・運営費用として寄付する制度



真のくらしの豊かさを実現する

協同と事業連携の力で、安心してらせるまちづくりに貢献します

買い物が困難な高齢者や赤ちゃんのいる家庭への支援、山間部や島への商品のお届けなど、地域やくらしの要望に沿ったさまざまなサービスを愛知県下の隅々で提供しています。コープあいちの物流インフラは、単に商品のお届けだけでなく、地域の中で人と人を結ぶ役割を担います。



モーニングコープ **Data** 利用登録者数／4,200人



牛乳などの乳製品を始め、野菜・果物・精肉・パン・惣菜など日常生活を一通りまかなえる食品類の他「ハイク化粧品」や「鮮魚ボックス」などのこだわり商品を扱っています。週2回、早朝6時半までに注文品をお届けしており、50代～70代の少人数世帯の方を中心にご利用いただいています。「商品カタログ(おはようガイド)の掲載商品数もちょうど良く商品を選びやすい。」「注文した商品が1週間に2回届くのは便利です。」「おでかけする前の早朝に玄関先に届くので助かります。」など、ありがたい声を利用者の方からいただいています。

2019年1月には物流拠点を東海コープ商品セットセンターに移転し、利用者の要望に応じて扱い品目を増やすと同時にインターネット注文の方法も改善しました。

夕食宅配 **Data** 利用者数／3,200人、1日当たりの配食数／4,400食

夕食宅配は、お買い物や食事づくりが困難という方へのひとつの解決策として、2010年11月から始めた事業です。毎日違う献立の夕食のお弁当を週5回(月～金曜日)、冷蔵でお届けしています。

商品をお届けした際に、前日のお弁当がそのまま残っているときには、確認の電話をした上で事前に登録いただいた緊急連絡先にお電話を差し上げています。毎日のお弁当配達を通じた利用者の方々とのかわりを大切にしています。

また、2019年3月より新たに介護食および医療食の取り扱いを始めました。通常食を食べられない咀嚼不良や嚥下障害などのある方、食事療養中の方に向けて、食のサポートの充実を図っていきます。



▲夕食宅配弁当(写真はイメージです)

▲介護食・医療食(写真はイメージです)

ランドセルカバー寄贈

日本コープ共済生活協同組合連合会は株式会社学協社と協力し、5年前からランドセルカバーを小学校に配布する「ランドセルカバー寄贈企画」を全国で実施しています。愛知県内でも毎年、寄贈の取り組みをすすめており、ランドセルではない学校にはチャック付連絡袋を贈呈しています。2019年度は378校26,950枚のランドセルカバー、16校728個のチャック付連絡袋の配布を予定しています。



▲あま市での寄贈式 2019年2月15日
写真右から あま市 村上市長、コープあいち 平光副理事長、コープ共済連 宮本部長

コープ宅配事業 **Data** 利用者数／143,087人 (2019年3月3週実績)

14のセンターより、愛知県内の隅々へ商品をお届けしています。配達は個人宅配・ペア宅配・グループ宅配など、利用者の状況と要望に沿った方法で行います。2018年7月には、コープ宅配料金制度を見直し、さらに利用しやすいしくみとなりました。また、2018年4月には、2センターを統合し西尾センターを開設。2019年2月には新城センターを新築・移転しセンター機能を充実しました。

高齢世帯・障がいがある方に対しては、コープ宅配料を減免する「コープ宅配サポート制度」で支援しています。また、妊娠中の方や1歳未満のお子さんがいるお母さんは「赤ちゃんサポート」で応援します。この制度は、最長1年間、コープ宅配料を無料化し、子育て情報提供などのサポートを継続的に行うものです。



▲新「新城センター」全景



▲災害へ備えるため、敷地内に防災倉庫と給油スタンドを設置。 ※16ページに関連記事

新「新城センター」開設

これまで新城センターの配送エリアとしてきた奥三河地域の加入率は40%を超えています。これは中山間地のくらしに必要な社会的なインフラとしての役割だけではなく、市民が協同して支え合うという生協の活動がひろく認知されているということだと思います。2019年2月には老朽化したセンターから環境に配慮し、防災機能を備えた新センターに移転しました。これからは、施設の機能も生かして地域みなさんにこれまで以上に頼りにしていただける存在をめざします。また、配送エリアも拡大して東三河全域のコープ宅配を豊橋センターと共に担うことになりました。両センターで協力していくことは当然ですが、店舗・福祉・夕食宅配など事業間のネットワークを今まで以上に強め、行政や諸団体のみなさんとの協力も今まで以上に深めて、地域のくらしに安全と安心をお届けしていきます。



▲新城センター 中村センター長

誰もが利用できる宅配システムへ

コープあいちでは、現在90人以上※の視覚障がい者の方が、コープ宅配を利用しています。1995年から携帯電話の音声ガイダンスを聴きながら商品を注文するしくみ「音声カタログ」を運用してきましたが、2018年5月より、さらに使いやすいしくみへとリニューアルしました。

「注文に時間がかかる」「商品情報をもっと知りたい」などの声に応え、
①音声検索モード ②「いつもの商品」から読み上げモード ③カテゴリー別読み上げモード ④お気に入り商品読み上げモードなどの商品選択機能を充実しました。また、商品選択時にテンキーを押すことで、調理方法や、賞味期限、アレルギー情報、次回企画などを音声で確認できるように改善しました。
※2月2回～3月1回の1カ月(4回分)で利用された人数



「やさい・くだもの」
「米・パン」「魚」……
※カテゴリー別
読み上げ機能

ご利用者の声

・商品の詳細が聞けるのがうれしい。いっぱい聞きたくなる。ずっと聞いて買い過ぎてしまいそう。
・雑貨の分類が細かくなってうれしい。お値打ちの分類もあってとてもいい。デパートみたいで、買うのが楽しくなる。

見守り協定 **Data** 協定締結自治体数／35行政 (2019年3月時点)

コープあいちでは、市町村と当該地域の事業所が連携し、高齢者の方などが住みなれた地域で安心してらせるまちづくりをめざして、見守り協定を結んでいます。高齢者等

域見守り協定や、はいかい見守りネットワークを愛知県下35の自治体と締結しています。



真のくらしの豊かさを実現する

協同と事業連携の力で、安心してらせるまちづくりに貢献します

県下19カ所に展開する店舗を始め、コープあいちの施設は地域のコミュニケーションの拠点です。2018年11月にリニューアルしたコープ日進店では売り場以外の店舗施設も見直し、組合員と地域のみなさんにより使いやすい施設に生まれかわりました。*3、4ページに特集記事



▲多目的集会室を設置

ふれあいひろば

お店や集会室を開放して開催する地域の人々のための交流の場です。“ひろば”ごとに用意されているイベント、お茶やランチ、歌やゲームなど、各地域で定期的に開催されているため、どなたでも気軽に利用できます。



▲「コープお茶の間サロン いっぱく茶屋」：コープ小幡

子育てひろば

0歳児から3歳児（基本、未就園児）とお母さんや妊婦さんが、のんびり過ごし交流できる場です。ママ友づくりや、子育てについておしゃべりしながら情報交換する場として気軽にご利用いただいています。



▲子育てひろば「こんにちは♥」：港センター

ふれあい便 **Data** 利用登録者数／1,386人 1日平均利用者数／45人（コープとよあけ店・コープ上社店）

店内で買い物した商品（冷凍・冷蔵品含む）を即日、ご自宅までお届けするサービスです（月～金曜日）。帰りに重い荷物を持ち帰ることを考えなくてもよいので楽しく買い物ができるようになりましたとの声をいただいています。



オリジナル電子マネー“WithCa”

10月1日よりコープあいちオリジナル電子マネー“WithCa”（ウィズカ）を導入しました。「小銭がいらないから便利」、「楽だね」など好評の声をいただいています。2019年3月時点で累計発行枚数9,245枚、利用率は16.6%を超えることができました。

店舗では毎月「5」のつく日にシニアデー・ほこちゃんデーを開催し、お買い物金額から5%引きにしています。

シニアデーは65歳以上の組合員を対象としており、ほこちゃんデーは、0歳から小学校卒業までのお子さんのいらっ

しゃる組合員の子育てを応援する日としています。中型4店舗では、「15日」を「ど真ん中市」と呼び、通常の150%近い多くの組合員にご来店いただいています。



コープ小幡夏祭り・・・組合員、取引先のみなさんと一緒に

コープ小幡では毎年7月に夏祭りを開催しています。くらしとお店の委員会の組合員、職員、取引先2社（(株)ティア、(株)ヤクルト東海）が協力し、焼きそばやたこ焼き、みたらし団子などの販売と、輪投げやスーパーボールすくいコーナーなどを設けました。「ほこちゃん」「コーすけ」「ヤクルトマン」の登場に子どもたちは大喜びでした。



コープ相談センター・くらしの相談室（生協生活文化会館）

組合員がくらしの中の困りごとを気軽に問い合わせる窓口として「コープ相談センター」を、専門家による相談窓口として「くらしの相談室」を設けています。



■ コープ相談センター **Data** 2018年度／1,002件の相談

くらしの中で困ったときやどこに相談すればよいのか分からないときに気軽にお電話をいただく総合的な窓口です。相談内容によって、生協の各事業所・行政機関・地域のくらしすけあいの会やワーカーズグループなど、適切な窓口の紹介もしています。

■ くらしの相談室 **Data** 2018年度／483件の相談

法律・税金・家庭内問題・相続・消費者被害など、相談内容をじっくりお聴きし、さまざまな専門家とのつながりも生かしながら、解決の道を一緒に考えます。専門性の高い法律や税金に関して、毎週木曜日に「税理士面談による税金相談」「弁護士面談による法律相談」を行っています。また、毎週火曜日には「女性総合相談」として、女性のもつ生活の悩み、困りごと、生き方などの相談を行っています。女性相談には、NPO法人「ウイメンズ・ボイス」に協力していただいています。

男の料理教室（コープ上社店）

くらしのテーマグループ「メンズクラブ上社」は、名東地域委員会の支援を受けて、食と健康をテーマに2017年に発足しました。この日（4月14日）は、18人の男性が参加し、(株)大里食肉センターの方から豚肉の基礎知識・飼育方法を学んだあと、産直豚肉を使用した「しょうが焼き」「豆苗の豚バラ肉焼き」「しゃぶしゃぶ」づくりにチャレンジしました。



<参加者の声> しゃぶしゃぶが柔らかく、おいしくて感激しました。

移動店舗車

地元の小売店の閉店など、車の運転が困難な高齢者にとって買い物が難しい状況が生まれています。移動店舗車は、コープ大高インター店を母店に週当たり25カ所の停留所を回っています。地域の組合員を中心に高齢者の孤立防止という福祉的視点から、行政や各地域の社会福祉協議会、民生委員のみなさんと停留所時間帯を通じてさまざまな取り組みを行っています。名古屋市中川区の市営万場荘の停留所は、地域のみなさんからの依頼を受けて実現しました。毎回自治会長と副自治会長が立会い、地域にお住まいのボランティアや組合員のみなさんが手伝ってくれています。

停留所の開設から2年を迎えた10月6日には、万場荘集会所で2周年記念イベントを開催しました。中川区、海部郡大治町の社会福祉協議会や社会福祉法人富田福祉会デイサービスセンター法華による福祉相談コーナー、コープあいちによるお楽しみ企画・コープ商品試食などを行い、いつもの2倍以上の利用者でにぎわいました。

移動店舗車の停留所もまた、地域のコミュニケーションの拠点となっています。





真のくらしの豊かさを実現する

メーカー・生産者とのパートナーシップを通じて健康で豊かな食生活をめざします

くらしの豊かさは食の豊かさから・・・

コープあいち、メーカー・生産者との交流を通じて商品の価値を共有化し利用の輪を広げます。



まなびカフェ Data 参加者数/420カ所6,391人

「まなびカフェ」はコープの取引先のみなさんが、組合員の住んでいる身近な地域で気軽に楽しく商品の学習や試食・料理実習などの企画を自主的に開催する取り組みです。2018年度は420カ所の会場で524の取引先の協力を得て6,391人の組合員が参加して開催されました。環境に関する問題や商品の特徴や食べ方、商品を取り巻く社会情勢に至るまで深く学ぶことができました。学習を通して生協商品に対する理解がより高まったという意見も多く寄せられています。

参加者感想 遠くに行かなくても身近な場所で学習ができてよかったです。ケチャップの味の違いにびっくり。コーミさんから教えていただいたケチャップを使った料理を早速家に帰って料理してみます。



▲2月5日 コープ豊明店
コーミさんをお招きし「とまとの学習と料理講習」を行いました。参加者12人

ラブコープフェスタ Data 参加者数/248カ所23,498人

みんなのラブコープフェスタは248会場、23,498人(2017年度 180会場 15,000人)と活動が広がっています。「地域のお祭りへの参加」、「離乳食交流会」や「高齢者同士の交流」など地域に根差した取り組みとして活動の幅が広がっています。減塩をキーワードにした「食育の取り組み」も始まりました。

参加者感想 ・ポトフはコンソメとウインナーがおいしく、家庭でもやってみようと思いました。
・内堀醸造さんのかける酢はよく利用しますが、煮込み酢は初めてだった。とてもおいしかったです。
・今日、味を確認できたので自信を持って注文できます。



▲10月27日 コープ宅配 岡崎センター
27のメーカーと500人以上の組合員と地域の方が参加し、生協商品を確認しました。写真は「あらびきブラザーズ」による、あらびきウインナーのポトフづくり。

内堀醸造株式会社 名古屋営業部 木田 憲 さん

私たちは「酢作りは酒造りから」を基本理念とし、岐阜県と長野県で酢を製造しています。なかでも、「らくらくかんたん酢漬け酢」や「すし酢祭ばやし」は組合員の声から生まれ、以来多くの組合員のみなさまに愛される製品に育てていただきました。「まなびカフェ」では酢を身近に感じていただけるような内容を中心にお話させていただき、巻き寿司や酢を使った料理も一緒に作らせていただきます。参加する度に、組合員のみなさんからはいつもうれしいお言葉や、驚くような使い方、時には厳しくも適切なご指導をいただき、私の方が勉強をさせていただいています。今後も私たち内堀醸造は組合員のみなさんのくらしに酢を通して貢献できるよう努めてまいります。



あいちを食べよう学習会 Data 参加者数/85人(3回合計)

コープあいちの重点課題の一つとして「あいちを食べよう日本の食を大切に!大運動」の推進のため「あいちを食べよう学習会」を8月、10月、2月の3回にわたり開催しました。「栽培自慢」や「はぐくみ自慢」の生産者を講師に座学と試食交流を行い85人が参加しました。

参加者感想 期待以上の内容で楽しくお話を聞かせていただきました。小学校の出前講座などで子どもたちに聞かせたい内容だと思いました。試食もおいしかったです。本当にありがとうございました。



▲2月15日 生協生活文化会館
「第三回あいちを食べよう学習会」参加者42人

稲作交流会 Data 参加者数/1,281人



▲10月13日 JAあいち海部「稲刈り体験」に35家族160人が参加。
当日は芋ほり体験も行いました。

コープあいちでは愛知県内の4つのJA(あいち海部、あいち豊田、あいち中央、あいち三河)と長野県のJA上伊那で稲作体験を行っています。「田植え体験」は156家族659人、「生き物観察会」は70家族315人、「稲刈り体験」には66家族307人と多くの方が参加しました。当日はみそ汁とご飯を食べながら親子でお米栽培の流れや田んぼに生息する生き物のこと、田んぼが環境保全に果たす役割などを学びました。

収穫体験

愛知県の3つのJA(あいち中央、あいち尾東、愛知東)と長野県の生産者グループで収穫体験を行いました。1月26日開催のJAあいち尾東との「プチヴェール収穫体験」では100人の参加者が寒さに震えながらも収穫を楽しみました。

参加者感想 本当に楽しい貴重な体験・ひとときでした。生産者にもお会いできてうれしかったです。農家の方は優しい方ばかりでした。これからも地産地消の野菜を応援していこうと思いました。



▲1月26日 JAあいち尾東「プチヴェール収穫体験」には100人が参加しました。

組合員とすすめる健康づくり

コープあいち「CO・OP共済 健康づくり支援企画」に応募し、2017年度から2019年度の3年間、健康づくりの取り組みをすすめています。組合員自身の食習慣の把握や食習慣改善のきっかけづくりを目的とした食習慣調査(BDHQ)や学習会を各地で開催しています。

12月1日には、豊橋センターで食習慣調査の学習会を行い、減塩料理の試食や血管年齢のチェックを27人の参加者で行いました。



参加者感想

・健康の源は食生活と常に思っていて家族の食事を担当しているのですが、チェック表で塩分のとりすぎという結果でした。すごく勉強になり、また刺激を受けました。
・現在のことだけでなく、10年後の健康のためにも今日から心掛けたいと思う内容でした。食習慣は家族の今後、子どもたちの結婚後の生活にも影響するので、私га 気をつけないといけないと思いました。

平和で公正な社会の実現

協同と連帯の力で、平和で公正な、誰もが阻害されない社会を実現します

健康で豊かな生活は、平和あればこそ。コープあいちは、核兵器も戦争もない安心してらせる社会をめざし、同じ思いのさまざまなみなさんと広く連携し、平和活動に取り組んでいます。



2018ピースアクションinヒロシマ 8月4日～6日

原爆の日に合わせて「ピースアクション」に組合員5人、理事2人、職員9人の計16人が参加しました。被爆の証言や碑めぐりを通して被爆地でなければ分からない平和への強い思いを共有しました。参加した2人の子どもたちは「子ども平和会議」にも参加し、子どもどうして平和な未来について考え合いました。また、参加した若い職員にとっても平和の尊さを再認識する貴重な経験となりました。



ヒバクシャ国際署名

「生きているうちに何としても核兵器のない世界を実現したい」という被爆者の思いに賛同し、ヒバクシャ国際署名に取り組んでいます。コープあいちで44,104筆、愛知県全体ではヒバクシャ国際署名を推進する「愛知県民の会」の取り組みを通じて2018年末で20万筆以上の署名が集まりました。

Data 署名件数／44,104筆



2018 あいち平和行進 5月31日～6月11日



平和行進が始まって60年。5月31日から6月11日までの12日間、今年も愛知県に平和行進がやってきました。コープあいちは各地域の実行委員会に参加し、プレ企画を行ったり平和行進を盛り上げるための準備をすすめました。また、組合員の「リレー行進者」※4人、職員26人によるリレー行進で愛知県内をつなぎ、核兵器のない平和な世界を沿道みなさんに呼び掛けました。12日間の行進には、のべ7,287人が参加し、350,988円の沿道募金と2,981筆のヒバクシャ国際署名が集まりました。

※行進の先頭に立って盛り上げる組合員のこと。毎年公募しています。

平和活動交流会(生協生活文化会館) 9月21日

組合員が平和について考えるきっかけをつくり、平和への取り組みを地域へ広げることを目的に「平和活動交流会」を開催し、組合員と役職員60人が参加しました。漫才師おしどりマコ&ケンの講演や組合員による紙芝居「檻の中のライオン」のあと、6つのくらしのテーマグループの活動について交流しました。



▲紙芝居「檻の中のライオン」

参加者感想

- ・それぞれの地域で平和や憲法の取り組みについて悩みながらも粘り強く活動していることを知りました。
- ・紙芝居は、憲法を学びなおす良い機会となりました。
- ・おしどりマコ&ケンさんの講演で、ドイツの学生が再び戦争が起きないようにいろいろ勉強している話が印象的でした。

復興支援

福島みらい企画 8月25日～28日

東日本大震災の復興支援のため、これまで岩手県三陸気仙地域を訪問・応援する企画を継続的に続けてきました。

2018年度は新たに福島県の被災地をめぐる企画を計画し、組合員28人(うち家族参加4組)が参加しました。7年経っても被災した当時のまま手つかずの地域があることや、帰還困難区域指定が解除されても戻った人は2割程度となっている地域など、福島の今を目の当たりにすることで継続的な支援の大切さを参加者は再認識しました。最終日には伊達市の桃生産者を訪問し、大変な努力で風評被害を乗り越えてきたお話を聞きました。直売場で購入し、特別な想いで食べた桃は格別の味だったとの声が参加者から寄せられています。



参加者全員で浪江駅にて

2017年4月に駅周辺地区の避難指示が解除され、北へ向かう路線が再開(南側は未開通)。



桃生産者の加藤和夫さん「福島の桃は、風評被害などで一時は出荷量が減少したが、ほぼ元に戻りつつある。糖度が高く、検査も行われており、安心して食べてほしい」

災害から「いのち・まもる」交流会(名古屋都市センター) 3月10日



災害を自分のこととして考え、それぞれの地域の防災・減災活動に生かすことを目的に講演会と交流会を開催し、組合員56人と役職員15人が参加しました。講演会では福和信夫教授(名古屋大学・減災連携研究センター長)から、必ずおとずれる南海トラフ地震に備え、発災時に命を守る家具の転倒防止処置や食糧のローリングストック、太陽光パネルなどによる電力の確保など具体的な行動にすぐに取り組むことが重要であることを学ぶとともに、コープあいちのBCP(事業継続計画)にも大きな示唆をいただきました。参加者の交流では家庭内の対策や不安について意見を交換しながら、他の多くの組合員に日頃の備えが命につながる事実をどう広げていくかを話し合いました。

西日本豪雨被災地支援

7月25日から9月3日にかけて、コープあいちと東海コープ事業連合より合計7人の職員が、岡山県・広島県のボランティアセンター支援に参加しました。現地ではボランティアの受け入れ準備や貸出備品の片付け・洗浄の他、人員不足の地域への土砂運搬支援などを行いました。

募金額

■ 西日本豪雨被災地支援	34,441,582円
■ 北海道胆振東部地震	6,558,319円



防災協定 **Data** 協定締結自治体／49市町村 (2019年3月時点)

2018年4月に開所した西尾センターは、西尾市と「災害支援協力協定」を締結しており、開所式ではセンター内に設置した防災倉庫や軽油スタンドなどの災害対策施設を見ていただきました。

2019年2月に新築・移転した新城センターでは、すでに締結している協定に「食糧・飲料水等の応急生活物資の提供」や、「施設を一時的な避難所とする」など、一層の協力関係を明記しました。

コープあいちでは、現在こうした防災協定を県下49の自治体と締結するとともに、各地域で実施される防災訓練に積極的に参加しています。



▲新城センターの防災・備蓄倉庫と燃料スタンド(災害発生時の燃料の備えとなります)



▲西尾センター防災・備蓄倉庫内部



▲春日井市総合防災訓練にて伊藤市長と小牧センター伊串センター長(当時)

人と人のつながりの中で… 2030年にありたい姿

持続可能な開発目標(SDGs)は、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に示された2016年から2030年までの国際目標です。

本特集ページでは、現在コープあいちで働く若い2人に2030年にありたい、自分自身の姿についてお聞きしました。



福祉事業所で働く森川さん

福祉の仕事を選んだ理由

高校生のときに友人とよく遊園地に出掛けました。友人は小さい子どもを見て「かわいいね」と言っていたのですが、私はどちらかというと子どもよりお年寄りの夫婦を見て「かわいらしいな」と思っていました。また、マザーテレサの本を読む機会があり、どんな人でも善人の心を持つことを信じ、真っ直ぐな芯を持つ人でありたいと思っていました。「将来は福祉の仕事が向いているのでは?」と、そのころの先生や友人のすすめから福祉の方向へ進みました。



森川由里奈
2014年3月に入協しデイサービス新川、ケアコープ豊橋を経て現在小規模多機能ホーム豊橋西の介護スタッフとして働いています。

利用者やスタッフとのつながりを通じて新たなやりがいがある

初めはデイサービス新川の配属となりました。右も左も分からず不安でしたが、日々多くのスタッフと働き、たくさんの利用者さんとレクリエーションなどで同じ時間を過ごす中で、楽しさや、やりがいを感じるようになりました。次にケアコープ豊橋の定期巡回へ異動となり、デイサービスのゆっくりとした時間から一気に流れが変わりました。初めて一人で利用者宅へ訪問することになりましたが、快く受け入れていただける方ばかりではなく、強く訪問を拒む方、終末期の利用者さんもいらっしゃいました。どうしたら受け入れてくれるのか、どうしたら利用者が少しでも負担を減らして生活が送れるのかと考えながら援助を行う毎日でした。1つひとつの自分の行動が利用者の生活を変えていくと思うと、自信をなくすこともありましたが、利用者や他職種のスタッフとのつながりが深まる中で少しずつ意識も変わってきました。小規模多機能ホーム豊橋西で働く現在も日々頭を悩ませています。が、今までの経験が新しいやりがいにつながっているのかなと感じています。

2030年にありたい姿



未来の自分を考えるとき、やはり家庭と仕事の両立が大切です。深刻な人手不足は続いているが、子どもの学校行事や体調を崩したときも安心して休暇がとれる職場環境のいっそうの充実や、職場の近くか目の届くところで保育施設があればいいと思います。また、高齢者を支える環境を今まで以上に整えて、デイサービスやショートステイにとどまらず入所できる施設を充実させ、子どもにも高齢者にも優しい場所が増えることを望んでいます。職場においても高齢の職員が、いつまでも活躍できるように、「身体介護」は体力のある若い人が、「生活援助」は経験豊富なベテランが担うなど、みんなで支え合っていきたいと考えています。

コープ宅配センターで働く河合さん



河合勇貴
2016年3月に入協し、港センターで地域担当を経て2019年4月より同センターの仲間づくり推進担当を担っています。

きっかけは「人と人をつなぐ仕事」という言葉

「人と人をつなぐ仕事」という言葉を就職ガイダンスで聞いたことが生協で働くきっかけでした。私自身、福祉大学でふくしを学び、実際に老人ホームや、保育園などで実習もしていました。そこでの気付きとして、もっと多くの困りごとを抱えている方が地域にはたくさんいると考えました。老人ホームに入所できた人、保育園に入園できたお子さんはサービスを受けることができます。

しかし、なかなか老人ホームに空きがなく、入所待ちの現状を目の当たりにしたり、待機児童のニュースも知るなかで問題は施設ではなく地域にあると感じました。生協の仕事を通じて地域のなかでまさに「ふくし」を体現することができ、サービスに手が届かなかった人とも、つながりを持つことができる点が生協の仕事を選んだ理由です。

大変なときの「ありがとう」…

大変なこともありました。配達コースによっては件数が多かったり、なかなか組合員さんと対面することができなかったりするコースがあります。件数が多いなかで、一件あたりに割く時間が3〜5分ほどしかなく、充分なコミュニケーションがとれないこともあります。新人のころはお昼休憩もわずかで、まずは自分自身の身体をしっかり管理しなければならないとも考えました。そういった時間がないなかでも、「大変だね、どうぞ」とコーヒーやお茶を差し入れてくださる組合員さんもいて、とてもうれしかったです。またグループ利用の高齢の方で、重い荷物を家まで運ぶのが大変な方がいました。少しの距離だったので、家まで運ぶと、「ほんとにありがとね、買い物も行けないからほんとに助かるよ」と喜んでいただけました。マニュアルではしてはいけないことがあり、過剰なサービスがいけないこともわかりますが、時には柔軟な対応をしてその人が「助かった。ありがとう」と言っただけのような対応も必要だと考えます。



2030年にありたい姿



▲港センターで、仲間と…(一番右が河合さん)

私自身、2030年にありたい姿として、「人と人をつなぐ」というコープあいちの役割を、中心となって広げていけるような立場になりたいと考えます。それは現在の「おさそい」という役割であったり、全く違う方法で生協の輪をひろげていたりするのかもしれませんが。2030年に考えられる社会情勢としては、「人口の1/3近くが高齢者」になると言われています。その中で、高齢になっても老人ホームではなく、住みなれた地域で生活を続けられるような支援を行ったり、少子高齢化だからこそ、子育てのしやすい環境づくりに力をいれて、職場保育園の設置などもやれるような立場になりたいです。また、2030年にはコープ宅配の配達システムもより効率化していると考えます。現在、改善を願う声を職員間で聞くことがあります。荷台での作業時間が長く、夏場は暑さ、強風の日には事故に巻き込まれる可能性もあります。荷台での作業時間をより減らし、効率よく商品を降ろせるようになれば、体力面も改善され、働きやすい職場になると考えます。



かけがえのない地球を未来の世代へ

責任ある消費と生産、気候変動への取り組みを、組合員と共にすすめます

長期的な視点から、今行動すべきことを明らかにし、一步一步確実な歩みをすすめていくために、コープあいちは、2018年4月、環境政策を見直し組合員と共に「社会的な責務・役割を発揮」していくことを内外に公表しました。

コープあいちの環境方針4つの柱	低炭素社会の実現 CO ₂ など温室効果ガスの排出削減による低炭素社会の実現に取り組みます。再生可能エネルギーの研究をすすめます。	循環型社会の実現 限りある資源を有効活用するために、資源の循環再生利用に取り組みます。
	自然との共生社会の実現 自然との共生社会実現に向けて、生物多様性のこと、森や川、海などの自然環境保全を啓発します。	地球にやさしい商品の普及 だれでも気軽に、参加できることとして、「地球にやさしい商品」(環境配慮商品)の普及に取り組みます。



低炭素社会の実現

■ 温室効果ガス排出削減の取り組み



▲新「新城センター」に設置した太陽光パネル

コープあいちでは2030年度に温室効果ガス(CO₂)発生総量を2013年度比で40%削減するための計画策定に着手しました。2021年度からの運用をめざし今後さらに計画内容の具体化をすすめます。以下は、環境方針に基づいて実施した2018年度のCO₂削減に関する取り組み事例です。

2018年4月に開設した西尾センターと2019年2月に新築・移転した新城センターには50kWの太陽光パネルを設置しました。この2センターも含めて3月20日現在、7カ所の宅配センターで太陽光発電施設を運用しており、2018年度は、全体で

■ BDF発電機の設置

新「新城センター」にはBDF燃料(廃食油からつくる燃料)で運転する発電機を設置しました。CO₂発生を抑えながら事業所で使用する電気の一部を発電するシステムで、年間約7万kWhの発電を見込んでいます。また、余熱の活用により暖房用電力を抑制します。



	CO ₂ 発生量 2018年			
	2017年度 CO ₂ 排出量	2018年度 CO ₂ 排出量	前年比較	%
コープ宅配事業	3,911	3,987	76	101.9%
店舗事業	5,104	5,016	▲88	98.3%
福祉事業	426	433	7	101.6%
本部・生活サービス事業	603	588	▲15	97.5%
合計	10,044	10,024	▲20	99.8%

・使用電力の排出係数は0.423(kg・CO₂/kWh)で計算。
 ・コープ宅配事業には、委託配送によるCO₂排出量を含みます。

360,054kWhを発電しました。また、西尾センター、新城センターでは発電した電力を売電せずに自家消費することで電力購入量を抑え、事業所で発生するCO₂を抑制するとともに災害時の電源確保に備えています。

店舗においては、季節によって異なる使用環境に合わせて冷凍機器・冷蔵機器のセッティングを調整する手法(チューニング)により、電力消費を抑える取り組みを全店ですすめました。また、コープ日進店のリニューアルでは、高効率で環境負荷が少ないCO₂冷媒を使用した冷凍・冷蔵機器への切り替えをすすめました。

■ CO₂冷媒を使用した冷ケースの導入

2018年11月、コープ日進店のリニューアルでは、一部を除きほとんどの冷ケースをCO₂冷媒の機器に切り替えました。CO₂冷媒は従来使用していたフロンガスに比べて温室効果が極めて低いことと、オゾン層への影響がない点など、環境負荷低減に優れた特性を持っています。また、冷凍食品の売り場では、冷気のロスが少なくエネルギー効率のよいリーチイン冷凍ケースを積極的に導入しました。



▲リーチイン冷凍ケース

循環型社会の実現 **Data** 循環資源の活用量／18,700t/年 (ロッセ農場2018年実績)

■ エコフィード／食品資源循環と温室効果ガスの排出削減へ

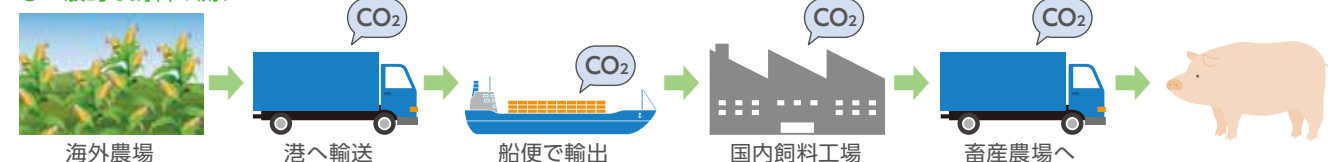
エコフィードとは、国内で発生する「食品製造の過程でできてしまう副産物や余剰食品、飼料米」などを家畜のえさとして活用し、その肉をまた利用するしくみです。資源循環により食料資源の廃棄を減らし、国内飼料自給率の向上をめざしています。また、豚肉の生産に必要な飼料は主に輸入穀物が使用されており、大半は遠くアメリカなどからの輸入でまかなわれています。エコフィードをすすめること、液状飼料を活用することは、自給率を高めると同時に、輸送や飼料製造に伴い発生する温室効果ガス(CO₂)を抑制し、低炭素社会の実現に貢献します。



コープの産直豚肉生産者「ロッセ農場」を対象にした豚1頭の肥育に関するCO₂排出量調査の結果
 ◆ 現在行っているエコフィード+配合飼料の液状飼料給餌の場合……448(kg・CO₂)
 ◆ エコフィード活用分を海外穀物飼料が主となる配合飼料100%給餌に置き換えた場合……585(kg・CO₂)

2割以上のCO₂削減効果

● 一般的な飼料の流れ



自然との共生社会の実現

■ 生き物観察会

愛知県内のJAのみなさんを中心に取り組んでいる稲作交流会(14ページ参照)の一環として、田んぼの生き物観察会(全5会場)を開催しています。

7月21日、JAあいち海部では、ビオトープネットワーク中部の宇野さんを講師に迎えて田んぼの生き物観察会を実施しました。おたまじゃくしとってつかまえた生き物が、実はナマズの稚魚だったなど、田んぼで見つけた生き物を子どもたちにも分かりやすく説明してもらいながら、さまざまな生き物を育む田んぼの役割を学びました。



地球にやさしい商品の普及

■ コープの森づくり

豊かな森が豊かな海を守ります。コープあいちでは植樹を通じて海を守る活動を支援しています。「コープの森づくりマーク」がついた商品の利用1点について1円を苗木代などにあてており、東海3生協の商品利用を通じて約170万円を寄付しました(2018年度実績)。



インドネシア・タラカン島では、潮汐を利用し、池に自生する植物や生物を生かした、自然に近いエビ養殖を行っています。こうした環境を維持するため、コープの森づくり活動の一環として、現地でマングローブの植樹を行っています。



寄付金額**257,066円** 植樹本数**1,500本**
 植樹するマングローブ苗木購入と輸送費、森づくりのための施設管理費などとして活用しました。(数値は東海3生協の実績)

北海道野付(別海町)では、漁協を中心に植樹と森の管理に取り組んでいます。今年も東海3生協の職員が現地で100本の苗木を植えました。



寄付金額**489,536円** 植樹本数約**700本**
 植樹する苗木購入とコープの森の管理費などとして活用しました。(数値は東海3生協の実績)

沖縄県恩納村では地元の漁協がサンゴ礁の海を育む里海づくりのため、サンゴ養殖の研究・植樹に取り組んでいます。もずくの利用を通じて植樹活動を支援しています。



寄付金額**948,619円** 植樹本数**306本**
 サンゴの苗木、植え付けに使用する台座などの購入代金などとして活用しました。(数値は東海3生協の実績)





責任ある消費・・・つくる責任・つかう責任

事業活動で排出される商品案内、包装資材などの回収・リサイクルを組合員とすすめるとともに環境負荷の低減につながる情報発信や学習の機会を設けています。

12

つくる責任
つかう責任

17

パートナーシップで
目標を達成しよう

「レジ袋削減取組優良店」として愛知県から表彰 11月19日

愛知県が開催している「ごみゼロ社会推進あい知県民大会」は、住民・事業者・行政が相互に連携しながら一体となって、ごみゼロ社会の形成を推進することにより、環境への負荷の少ない資源循環型社会の構築をめざしています。コープあいちの店舗は、長期レジ袋削減取組優良店(10年継続)に17店舗が、長期レジ袋削減取組優良店(5年継続)に1店舗が表彰されました。2018年度、コープあいち全体のレジ袋削減率は95.0%となっています。



大村知事(右)から表彰を受けるコープ安城よこやま 山中店長(左) ▶

環境活動交流会(名古屋都市センター) 3月2日



再生可能エネルギーを主なテーマに「環境活動交流会」を開催し、組合員を中心に43人が参加しました。第1部は漫才師の「カンキョーズ」による「おもしろなるほど新エネルギー」と題する講演です。漫才風の楽しいやり取りを通して、地球温暖化や再生可能エネルギーなどについて学びました。第2部では展示パネルの5分間学習の他、おひさま進歩エネルギー(株)の谷口彰さんから再生可能エネルギーと地域のつながりに関する話をお聞きました。

参加者感想

身近でみんなが参加し、考え、温暖化の危機を知ることが大切だと思いました。

コープあいちエコセンターにおけるリサイクル

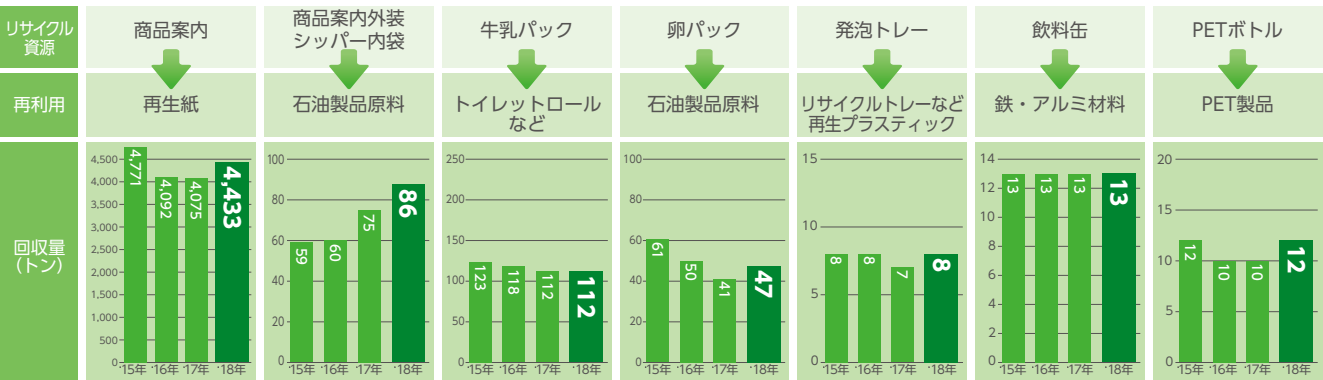


循環型社会実現への貢献をめざし、東海3生協と東海コープ事業連合が連携してリサイクルを推進しています。エコセンターの作業は、株式会社ハートコープあいち(コープあいち特例子会社)が障がい者を雇用して運営しています。ハートコープあいちは、障がい者が仕事を通じて社会参加と自立ができるように支援し、事業を通じて地域社会へ貢献していくことをめざしています。

エコセンターの
作業内容

商品案内、卵パック、通い箱の内袋などリサイクル品の異物除去、圧縮作業の他に、コープあいち通信など、総代への送付物のセット作業も行っています。

事業活動でのリサイクル実績



環境会計

環境保全コスト：事業活動での環境への負荷を減らすための投資や経費 単位:千円

分類		主な取り組みの内容	実績値	前年度比較
内訳	1.公害防止コスト	公害(大気・水質・土壌、騒音・振動・悪臭等)防止のための投資および経費 浄化槽点検・水質検査等	2,254	147
	2.地球環境保全コスト ※1	省エネ・地球温暖化防止のための設備機器導入費用、 BDF車両運用でのメンテナンス費用	163,506	109,623
	3.資源循環コスト	廃棄物処理・リサイクルに必要な投資および委託費用	41,570	1,464
上・下流コスト		再商品化委託料	1,594	256
管理活動コスト		サステナビリティレポート費用等	1,320	▲1,047
調査研究活動コスト		環境関係団体会費、研修会費用	519	100
社会活動コスト		環境保全活動(環境家計簿・NOx測定等)	1,393	▲137
環境損傷コスト		環境にかかわる機器の修復(撤去)費用、環境賦課金	0	0
合計			212,156	110,406

※1) 地球環境保全コストの施設設備費用は取得価格を記載しています。

環境保全効果：事業活動で使用了各エネルギー量と廃棄量の変化

①環境保全効果を表す指標(事業活動で取り組んだ効果)				実績値	前年度比較
事業活動に 投入した資源	エネルギーの投入	電気(電力使用kWh)	施設の照明・空調・要冷設備等で使用	15,654,128	34,262
		都市ガス(m³)	空調・給湯設備	98,880	▲ 3,498
		LPガス(m³)	給湯設備	8,588	▲ 29
		ガソリン(リットル)	配送車両・業務車運行	322,997	▲ 23,872
		軽油車両(リットル)	配送車両・業務車運行	476,050	1,264
		LPG車両(リットル)	配送車両・業務車運行	18,775	▲ 17,871
		水(m³)	施設の上水・下水	63,391	▲ 1,534
事業活動の 環境負荷および 廃棄物に 関する効果	エネルギー消費によるCO₂排出量(t-CO₂) ※2			10,024	▲ 20
	一般廃棄物排出量(317t) - 生ゴミ堆肥化リサイクル量(146t) = 廃棄量(171t)			171	14
	廃プラスチック排出量(172t) - 資源化量(69t) = 廃棄量(103t)			103	1
	生ゴミ・廃プラスチックの再資源化量(t)			215	▲ 9

※2) ・エネルギー消費によるCO₂排出量は、電気の使用量に排出係数0.423(kg-CO₂/kWh)を乗じたものです。
・委託配送によるCO₂排出量を含みます。

②環境保全効果を表す指標(組合員と共にを行った活動での効果)			実績値	前年度比較
回収リサイクル量	レジ袋想定削減枚数(千枚)		6,438	▲ 181
	牛乳パック回収(t)		112	▲ 0
	卵パック回収(t)		47	6
	スチロールトレイ回収(t)		8	1
	シッパ内袋回収(t)		86	11
	商品案内書(t)		4,433	358

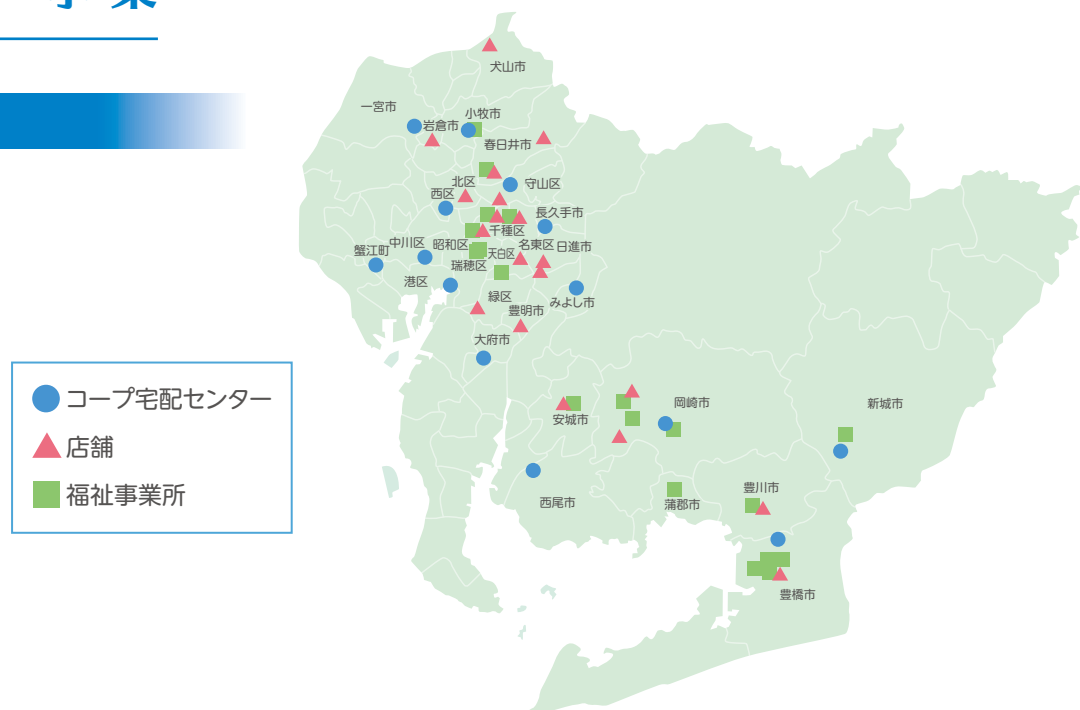
単位:千円

		実績値	前年度比較
廃棄物処分にかかわる収益	廃棄物の有償リサイクルによる販売収入(牛乳パック、店内加工での廃食油)	1,303	▲ 50
	レジ袋有料化によるレジ袋代金収益	1,700	3
合計		3,003	▲ 47

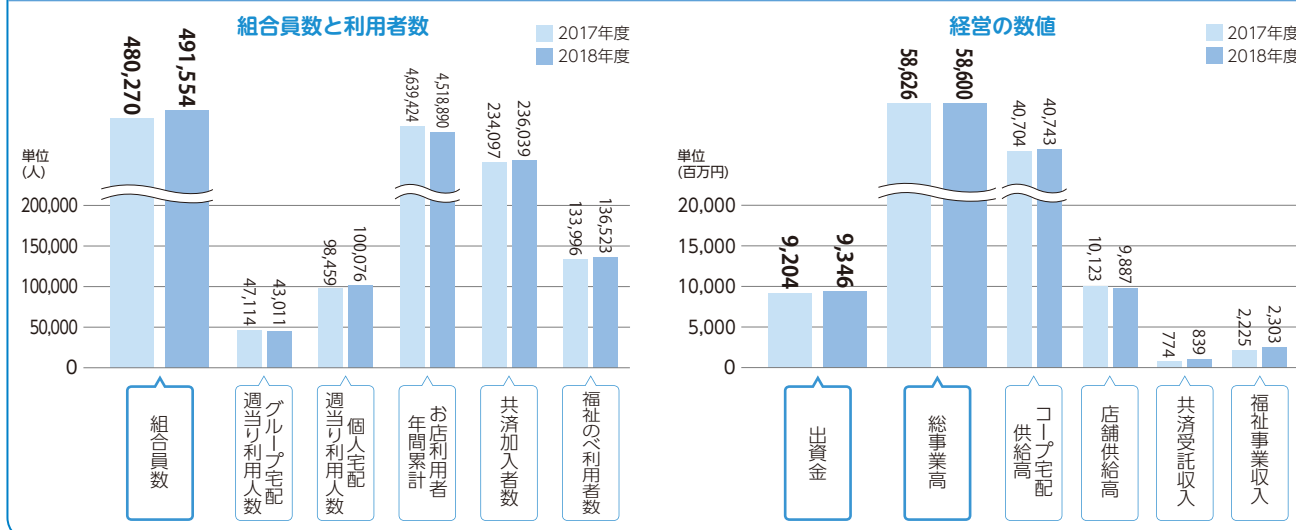
単位:千円

		前年度比較
店舗での値引きロス・廃棄ロスの削減		2,828

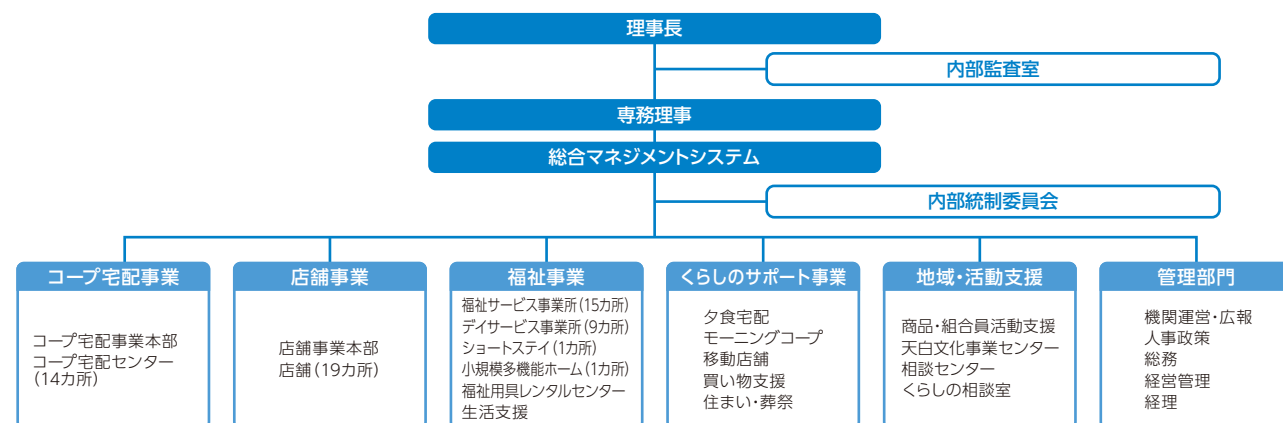
組織概況



コープあいちの概要



2018年度マネジメントシステム管理体制



2018年度、内部統制の取り組み

リスク評価に基づき選定した32の重点項目について、リスク低減処置をすすめつつ業務の効率化と活動の活性化に取り組みました。内部監査では、各事業所(51カ所)のほぼすべての責任者が、内部監査員として他の同種の事業所を訪問し監査することで、より深い監査をめざしました。重点リスクへの対応状況や昨年の指摘事項の改善状況などを確認するとともに互いによい点と改善すべき点を指摘し合いました。

主要事業(概況)

コープ宅配事業

コープ宅配は、14の宅配センターより、愛知県内の隅々へ商品をお届けしています。配達は個人・ペア・グループなど利用者の状況と要望に沿った方法で行います。食品を中心に毎週4,000品目以上の商品を注文書でご案内し、生活スタイルに合わせ毎週14万人の組合員が利用しています。2018年度の供給高は407億円(前年比100.1%)。新規加入は、18,000名でした。



店舗事業

愛知県内に19店舗(尾張エリアに14店舗、三河エリアに5店舗)を展開し、毎日の食生活を支える事業を行っています。2018年度の供給高は約98.9億円(前年比97.7%)、のべ約452万人(前年比97.4%)の方が来店されました。



福祉事業/生活支援事業



県下21カ所の福祉事業所でさまざまなサービスを提供しています。

- 居宅介護支援事業所: 15カ所/ケアプラン: 延べ32,653人
- 通所介護事業所(デイサービス): 9カ所/利用者数: 延べ44,774人
- 短期入所生活介護事業所: 1カ所/利用者数: 延べ6,635人
- 小規模多機能事業所: 1カ所/利用者数: 延べ304人
- 地域包括支援センター事業所: 3カ所/ケアプラン: 延べ8,369人
- 訪問介護事業所: 14カ所/利用者数: 延べ25,167人
- レンタル・販売利用者数: 延べ18,608人

くらしのサポート事業

くらしのサポート事業部は、7つの事業(モーニングコープ、夕食宅配、店舗ふれあい便、移動店舗、葬祭、住まいのコープ、生活サービス事業)を担っています。組合員の「困りごと」に対し、コープあいちすべての事業と連携し、お役立ちすることを目標に2017年度発足しました。

- モーニングコープ利用登録者数/4,200人
- 移動店舗車(フレンズ便) 停留所数/25カ所
- 夕食宅配利用者数/3,200人、1日あたり利用食数/4,400食
- ふれあい便登録者数/1,386人



▲移動店舗の停留所(中川区の市営万場荘)

共済事業

CO・OP共済《たすけあい》《あいづらす》《ずっとあい》の加入件数は236,039件です。コープ共済は生協組合員が加入できる保障商品です。全国合計で837万人を超える加入者があり、2018年度はコープあいちだけで、37,408件、18.9億円の共済金をお支払しました。

※数値は2019年4月10日

現在のものです。



▲共済カウンターは身近な相談窓口です。写真はコープ上社店

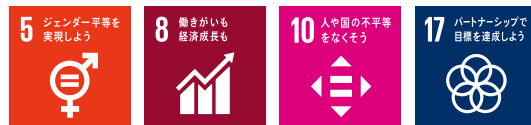
天白文化事業センター

天白文化事業センターでは、文化講座だけでなく、地域のみなさんが気軽に立ち寄ることができる場所となることをめざしています。定期講座44講座(69クラス)の他、ちびっこクッキングやCO・OPスクールなど、幼児から80代まで幅広い方々が利用しています(年間受講者数8,300人)。



多様な職員の力で未来を拓く

コープあいちでは3,197人の職員がさまざまな職場で働いています(2019年3月20日現在)。協同組合の理念を大切に、互いの価値を認め合い尊重し合える職場風土をめざし就労環境の整備をすすめています。



障がい者雇用 **Data** 雇用人数／61.5人[特例子会社の9人を含む] 2018年6月時点

2017年6月に3.4%だった障がい者法定雇用率は2018年6月には3.58%となりました。また、この間、障がい者の未就労職場をなくす取り組みをすすめてきましたが、2018年度は特に複数配置を積極的に推進しました。

家庭と職場のよりよい関係を・・・

■ 子ども参観日 **Data** 参加者／9家族12人

夏休みを利用して親の働く姿を見たり、仕事を体験することで親子の交流の機会になっています。職場訪問を通じて、子どもたちは親の仕事の大切さと大変さを知りました。

■ 育児休職者の会 **Data** 対象者9人／5人が参加

2019年3月時点で、育児休職を活用している職員は9人です。毎日、育児に奮闘しているママが集合し、お互いに日々の様子や思っていることなどを交流しました。今年の事業方針、男女共同参画推進委員会の活動についてお伝えしながら、復職のイメージをつかんでいただくようにしました。また、時短勤務で仕事にも育児にもがんばる先輩職員も参加し、仕事と家庭の向き合い方など、経験をまじえたアドバイスを聞きました。

いつまでも生き生きと働くことができる環境づくり **Data** 再雇用人数／72人 定時除く 2019年4月時点



▲担当グループの組合員と“ハイ・ポーズ”

小牧センター 石川博志さん

2018年4月、再雇用制度により小牧センター宅配業務に着任しました。「新人のときに担当した班を偶然にもまた担当することになり、少し恥ずかしい」と言いながらもうれしそうに語る石川さんは、グループ宅配の配達を中心に若い担当者と変わらない物量を軽々とこなしています。週4日の就業パターンを選択した石川さんにとって3日間の休みの理想の過ごし方は、1日は奥さんとランチに出かけ、1日は日曜大工など体を動かすことに、あと1日は趣味の溪流釣りへ……。ワークライフバランスをしっかりと意識して、充実した毎日を過ごしています。



▲島内の狭い路地では、台車に載せて商品を運びます。



「組合員さんとのコミュニケーション、信頼関係が大切であることをあらためて感じました。ニーズに応じていけるような職員になりたいです」研修参加者の感想より

学ぶ(職員教育・研修)

教育プログラムに沿って経験年数に応じた職員教育を実施しています。

2018年度新入協職員は、研修を通してコープの理念や商品のこと、仲間づくりの大切さを学びました。

日間賀島で実施した宅配業務研修では、お役立ちの気持ちと、組合員との信頼関係の大切さを実感しました。

「ベスト消費者サポーター章」受賞



▲「ベスト消費者サポーター章」授賞式
(5月28日愛知県庁にて)
写真右:愛知県 鳥居県民文化部長
左:コープあいち 平光副理事長

高齢者が住みなれた地域で安心してらせるまちづくりをめざして、見守り協定を35行政と締結するなど積極的に貢献したこと、農産物の収穫体験・子どもクッキングなどの「食育活動」、環境家計簿の推進や愛知の森の魅力を広く伝えるためのリーフレットづくりといった「環境活動」が評価され、コープあいちは2018年度「ベスト消費者サポーター章」を受賞しました。

※「ベスト消費者サポーター章」は、消費者庁が消費者利益の擁護・増進のために活動している個人と団体・グループを表彰する制度です。

「持続可能な開発目標(SDGs)」の大きな特徴は“誰ひとり取り残さない”ことを明確に掲げている点であり、協同組合が大切にしてきた理念に通じるものです。コープあいちはこれからも一人ひとりの笑顔ある暮らしをサポートしていきます。

サステナビリティレポート発行にあたって

ありがとうの声が
響きあう持続可能な
未来へ

コープあいち 理事長 森 政広

コープあいちSDGs行動宣言

2018年6月の第9回通常総代会で、コープあいちSDGs行動宣言を採択しました。私たちは、「コープあいちの2020年ビジョン」のもと、たすけあいの組織として、誰もが笑顔でくらしつづけることができる社会の実現をめざし、さまざまな取り組みをすすめてきました。行動宣言では、「私たちが取り組んできた活動の価値を確かめ合い、協同の力でSDGsの実現に貢献していきましょう」「一人はみんなのために、みんなは一人のために」の理念を大切に、安心してらせる持続可能な社会の実現に向けてともに歩んでいきましょう」と呼びかけました。

2018年度は、組合員・職員のみなさんに、生協の取り組みそのものがSDGsでめざしていることで、生協の事業と活動をさらに広げていくことが大切であることを学習会や広報物などを通じてお知らせしてきました。くらしの中で、できることを家族で考え合うきっかけになればとコープあいちがつくった「SDGsすごろく」も全国の生協で話題になっています。

また、「いいともあいち運動推進20周年記念表彰」、「店舗レジ袋削減の取り組みでの表彰」、「植樹祭への協力に対する感謝状」を愛知県からいただくなど、これまでの取り組み



に対する評価とこれからの活動への期待が高まっています。

今後、私たちは、コープあいち10周年記念事業や2030年ビジョンの検討の中で、SDGsの目標達成のためのさらなる具体化をすすめていきます。

2020年コープあいち創立10周年に向けて

2019年は、消費税の増税・軽減税率の導入など、くらしを取り巻く環境は、これまで経験したことのない見通しが極めて不透明な年となります。働き方改革、人材の確保・育成も大きな課題です。高齢化、少子化、人口減少、格差の拡大がすすむ中、生協で取り組んでいる、安心してくらしつづけるまちづくりがいっそう大切になっています。ありがとうの声が響きあい、困ったことがあればみんなですすけあい、ささえあう、そんなまちづくりをみなさんとすすめていきたいと思います。

2020年3月、コープあいちは創立10周年を迎えます。みなさんと一緒に、地域のくらしに貢献できるよう、共に力を合わせていきます。本サステナビリティレポートをお読みいただいたみなさんの、ご支援ご鞭撻をよろしくお願い致します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



編集にあたって

●この報告書は、コープあいちの環境、地域社会への貢献、商品やサービスの安全性確保、品質レベルアップ、消費者・組合員へのサポート、労働慣行や人権への配慮など、1年間の活動全体を紹介するものとして編集しました。

報告書の対象範囲

この報告書はコープあいちの全部局・全事業所および委託先関係団体の環境活動・事業活動をまとめたものです。対象期間は2018年3月21日～2019年3月20日までとしています。なお一部範囲を超えた記述も掲載しています。

発行年月

2019年6月。次回は2020年6月の発行予定です。

インターネットでの関連情報の閲覧について

関連情報はこちら

コープあいち 社会的活動報告

検索



©やなせたかし
コープあいちキャラクター
ほこちゃん



〒465-8611 愛知県名古屋市名東区猪高町大字上社字井堀25の1
TEL 052-703-6022 FAX 052-703-3387



- 本文には、ユニバーサルデザインの視点に基づいた書体(UDフォント)を使用しています。
- FSC森林認証紙を使用しています。
- 揮発性有機化合物(VOC)を含まない植物油100%のノンVOCインキを使用しています。
- 有害物質を含む湿し水を使用しない、水なし印刷方式にて印刷しています。
- 水性のりを使用した「のり綴じ製本」を採用しています。針金を使用しないため、安全性に優れています。